

I 男女の地位の平等

1 男女平等について現在の状況

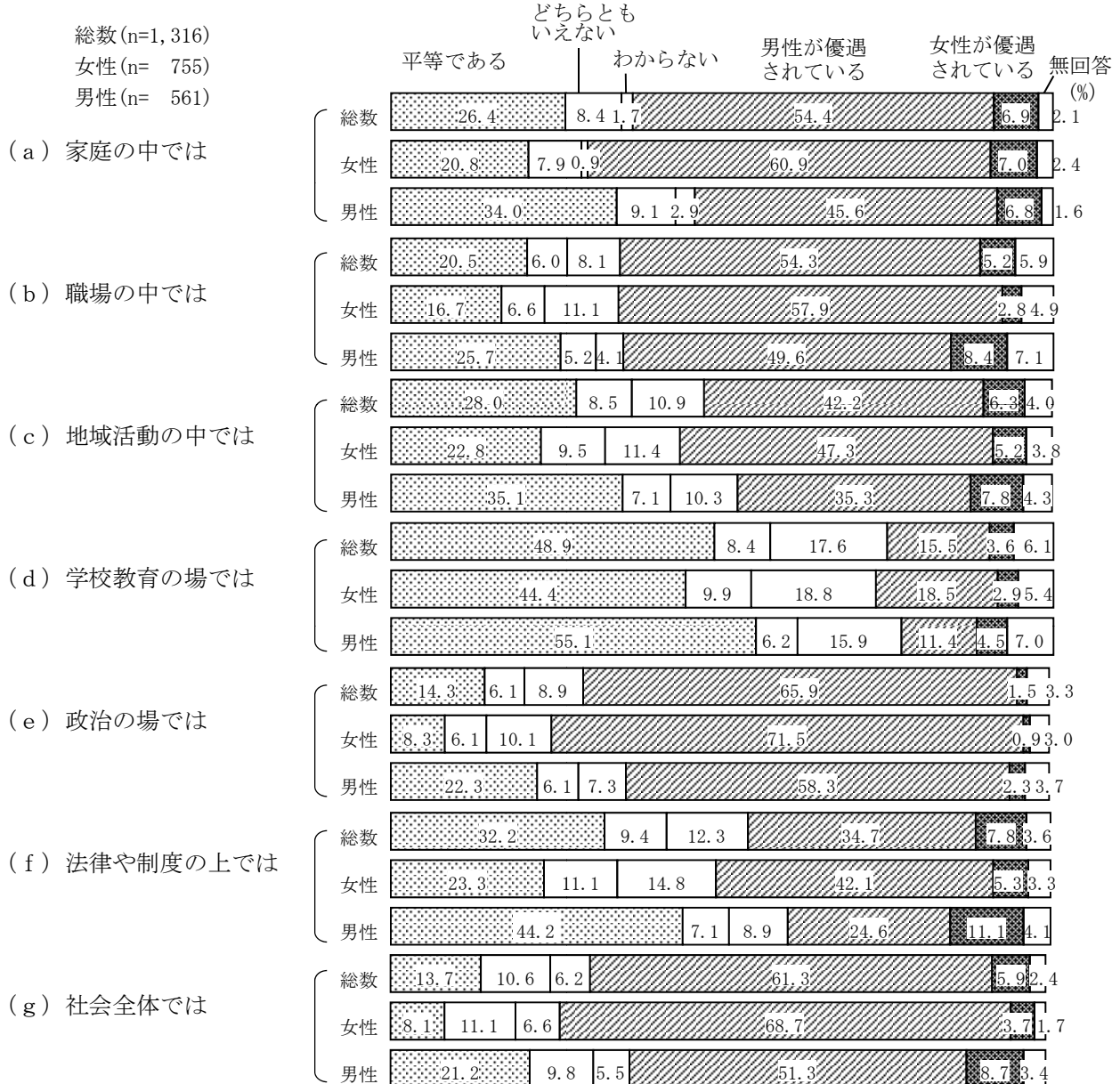
問1 現在の日本の社会において、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの分野について、あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

全体では「平等である」と考える人が多いのは、“(d) 学校教育の場” (48.9%)、“(f) 法律や制度の上” (32.2%)、“(c) 地域活動の中” (28.0%)、の順になっている。一方、「平等である」と考える人が少ないのは“(g) 社会全体” (13.7%)、“(e) 政治の場” (14.3%) となっている。

女性では、“(g) 社会全体” (8.1%)、“(e) 政治の場” (8.3%) で、「平等である」が1割未満になっているのをはじめ、全ての分野において「平等である」と考える人は、女性の方が男性より少ない。

男性の場合、“(g) 社会全体” (21.2%)、“(e) 政治の場” (22.3%)、“(b) 職場の中” (25.7%) では2割～3割程度であるが、全ての分野において、女性より「平等である」と考える人は多くなっている。特に差が大きいのは、「法律や制度の上」 (44.2%) で、女性を21ポイント上回っている。

図1-1 男女平等について現在の状況 項目別一覧(性別)



※『男性が優遇されている』は調査票選択肢の「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合計したもの。

『女性が優遇されている』は調査票選択肢の「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合計したもの。

以降の頁も同様。

男女平等について現在の状況

(a) 家庭の中では

【性別】

「平等である」は男性の方が13ポイント多く、「男性が優遇されている」は女性の方が15ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「平等である」は南加賀(24.7%)で多く、能登北部(12.2%)で少ない。能登北部では、『男性が優遇されている』(調査票選択肢の「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合計したもの。以下同様。)が65.3%と多い。

男性では、「平等である」が、能登北部(27.8%)で他の地域に比べ少なくなっている。

【年代別】

女性では、「平等である」が30代(28.7%)で最も多く3割近くなっているが、他の年代では2割前後にとどまっている。

男性の場合は、「平等である」が60歳以上(27.8%)が最も少なく3割を切っており、その他の年代では4割近くなっている。

【未既婚別】

女性では、「平等である」が有配偶者(22.3%)で多く、『男性が優遇されている』は未婚者(51.5%)で少なくなっている。

男性では、「平等である」が有配偶者(35.4%)で多く、『男性が優遇されている』も有配偶者(48.7%)で多い。

【本人の職業別】

女性では、「平等である」は各層で差が見られないが、『男性が優遇されている』は自営業・家族従業者(68.3%)、勤め人(65.2%)で多い。

男性では、「平等である」が勤め人(37.6%)で特に多く、『男性が優遇されている』は自営業・家族従業者(52.6%)、無職・学生(50.0%)で多い。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」が幼児がいる人(25.0%)で多く、『男性が優遇されている』は学生の子がいる人(67.9%)で多い。

男性では、「平等である」が学生の子がいる人(39.2%)で多く、『男性が優遇されている』は社会人の子がいる人(50.8%)で多い。

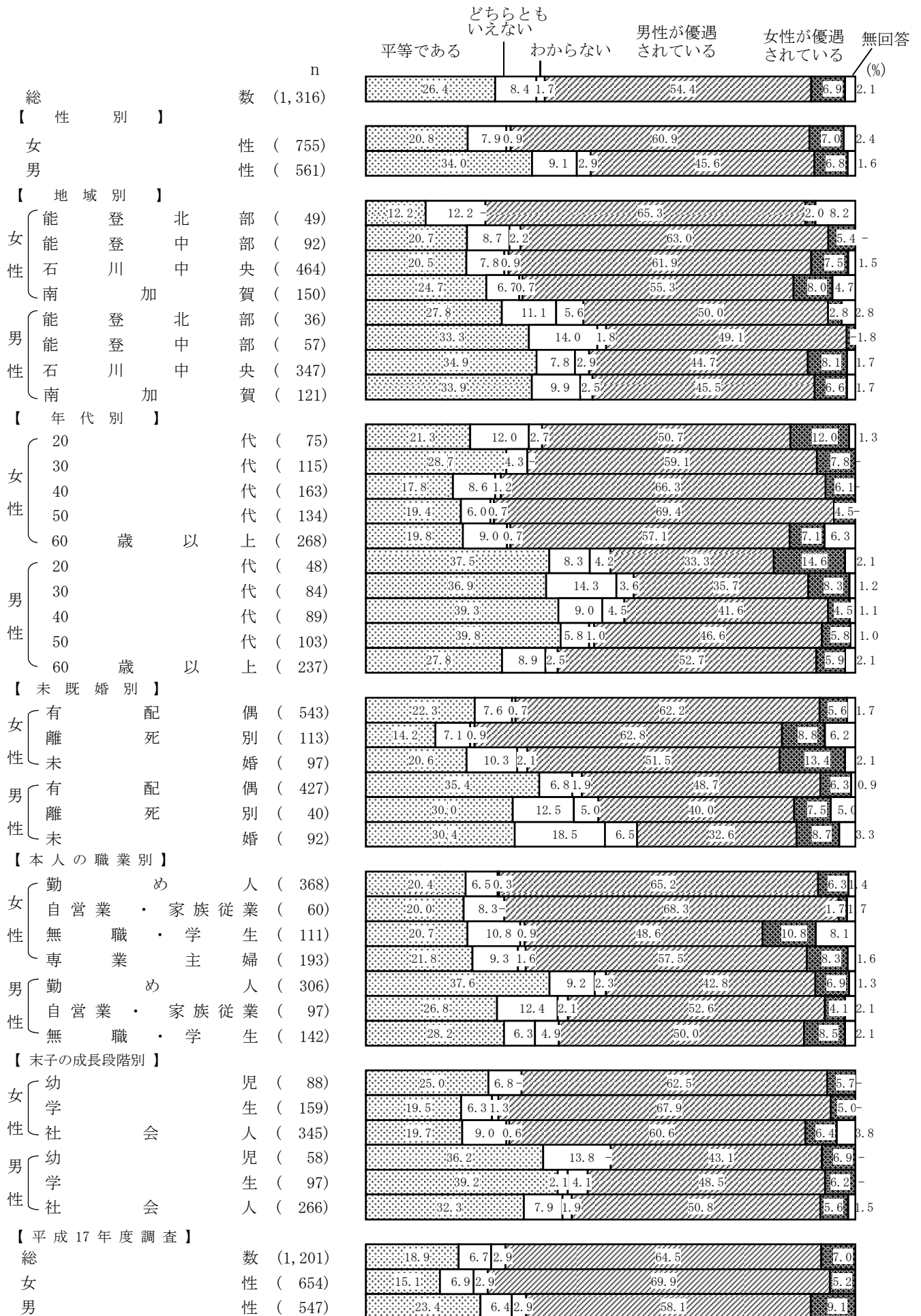
【平成17年度調査との比較】

女性では、「平等である」が6ポイント増加し、『男性が優遇されている』は9ポイント減少している。

男性では、「平等である」が11ポイント増加し、『男性が優遇されている』は13ポイント減少している。

図1-2 男女平等について現在の状況 (a) 家庭の中では

(性別、地域別、年代別、未既婚別、本人の職業別、末子の成長段階別、平成17年度調査結果)



男女平等について現在の状況

(b) 職場の中では

【性別】

「平等である」は男性の方が9ポイント多く、「男性が優遇されている」は女性の方が8ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「平等である」は南加賀（19.3%）で多く、能登北部（12.2%）で少ない。

男性では、「平等である」は能登北部（36.1%）で他の地域に比べ多くなっている。

【年代別】

女性では、「平等である」は年齢が上がるほど少なくなっている。

男性では、『男性が優遇されている』は20代（33.3%）が最も少なく、その他の年代では総じて5割前後となっている。

【未既婚別】

女性では、「平等である」が未婚者（21.6%）で多く、『男性が優遇されている』は有配偶者（58.9%）が多い。

男性の場合も、「平等である」が未婚者（29.3%）で多く、『男性が優遇されている』は離死別者（52.5%）が多い。

【本人の職業別】

女性では、「平等である」が勤め人（22.8%）で最も多いが、一方で、ほぼ6割以上の人、『男性が優遇されている』と答えている。

男性では、「平等である」は勤め人（28.8%）、自営業・家族従業（29.9%）で多くなっている。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」が幼児がいる人（22.7%）で多く、『男性が優遇されている』は学生の子がいる人（62.9%）が多い。

男性の場合も、「平等である」が幼児がいる人（39.7%）で多く、『男性が優遇されている』は学生の子がいる人（57.7%）が多い。

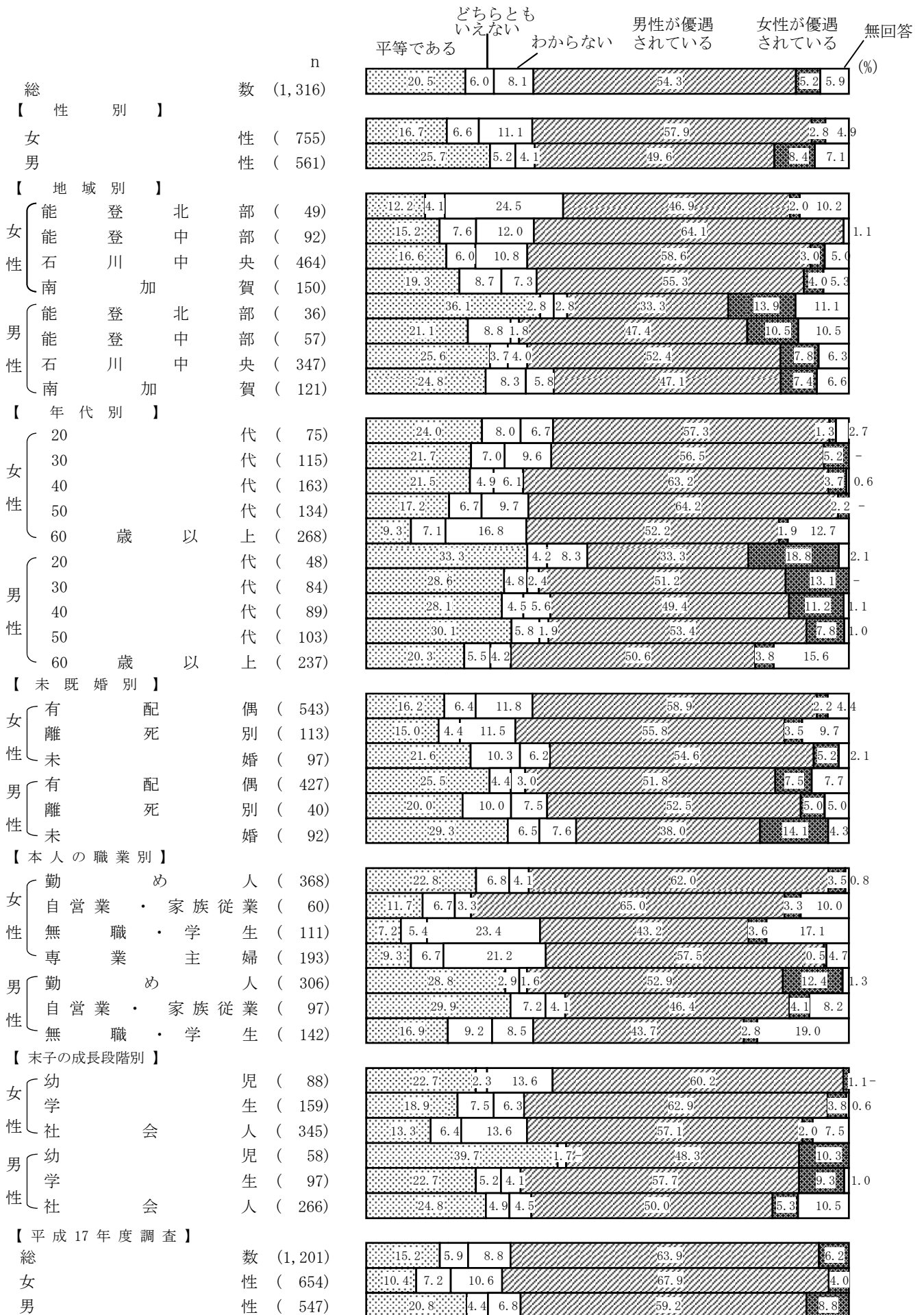
【平成17年度調査との比較】

女性では、『男性が優遇されている』が10ポイント減少している。

男性の場合も、『男性が優遇されている』は10ポイント減少している。

図1-3 男女平等について現在の状況 (b) 職場の中では

(性別、地域別、年代別、未既婚別、本人の職業別、末子の成長段階別、平成17年度調査結果)



男女平等について現在の状況

(c) 地域活動の中では

【性別】

「平等である」は男性の方が12ポイント多く、「男性が優遇されている」は女性の方が12ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「平等である」は石川中央（26.5%）が多い。

男性では、「平等である」は南加賀（39.7%）、石川中央（36.9%）が多い。

【年代別】

女性では、「平等である」が30代（28.7%）、20代（28.0%）で多く、『男性が優遇されている』は40代（56.4%）50代（55.2%）が多い。

男性では、『男性が優遇されている』は20代（18.8%）が最も少ない。

【未既婚別】

女性では、「平等である」が未婚者（28.9%）が多い。

男性では、『男性が優遇されている』は未婚者（25.0%）で最も少ない。

【本人の職業別】

女性では『男性が優遇されている』が勤め人（53.0%）、自営業・家族従業（53.3%）で多く5割を超えているが、その他では総じて4割前後となっている。

男性では、「平等である」が勤め人（36.6%）で多くなっている。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」が幼児がいる人（30.7%）で多く、『男性が優遇されている』は学生の子がいる人（57.2%）が多い。

男性の場合も、「平等である」が幼児がいる人（39.7%）で多く、『男性が優遇されている』は学生の子がいる人（40.2%）、社会人の子がいる人（39.5%）が多い。

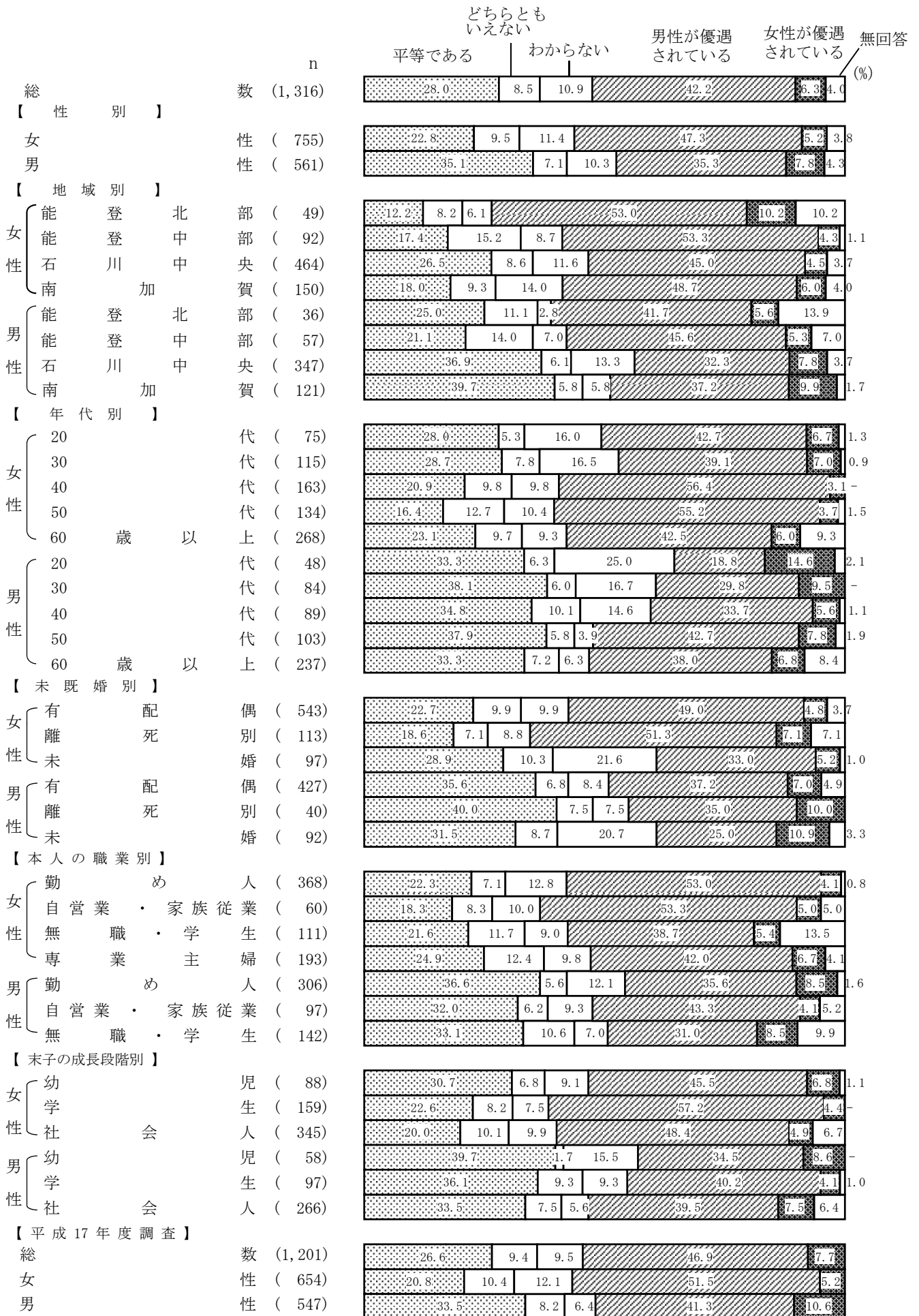
【平成17年度調査との比較】

女性では、「平等である」は大きな変化はないが、『男性が優遇されている』は4ポイント減少している。

男性の場合も、「平等である」は大きな変化はなく、『男性が優遇されている』は6ポイント減少している。

図1-4 男女平等について現在の状況 (c) 地域活動の中では

(性別、地域別、年代別、未既婚別、本人の職業別、末子の成長段階別、平成17年度調査結果)



男女平等について現在の状況

(d) 学校教育の場では

【性別】

「平等である」は男性の方が11ポイント多く、「男性が優遇されている」は女性の方が7ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、「平等である」は石川中央（46.6%）で多く、能登中部（37.0%）、能登北部（38.8%）で少ない。

男性では、『男性が優遇されている』が、能登中部（5.3%）で他の地域に比べ少なくなっている。

【年代別】

女性では、「平等である」が年代が若いほど多くなっている。

男性の場合は、「平等である」がいずれの年代でも5割を超えるが、特に50代（65.0%）で6割を超え多くなっている。

【未既婚別】

女性では、「平等である」が離死別者（38.9%）で少ない。

男性では、「平等である」が有配偶者（56.9%）で多く、『男性が優遇されている』は離死別者（15.0%）が多い。

【本人の職業別】

女性では、「平等である」が勤め人（50.3%）で最も多く、無職・学生（35.1%）で少ない。

男性の場合も、「平等である」が勤め人（57.8%）で多く、無職・学生（52.1%）で少ない。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」が末子が学生の人（58.5%）で多く、末子が社会人の人（37.4%）で少ない。

男性の場合も、「平等である」が末子が学生の人（63.9%）で多くなっている。

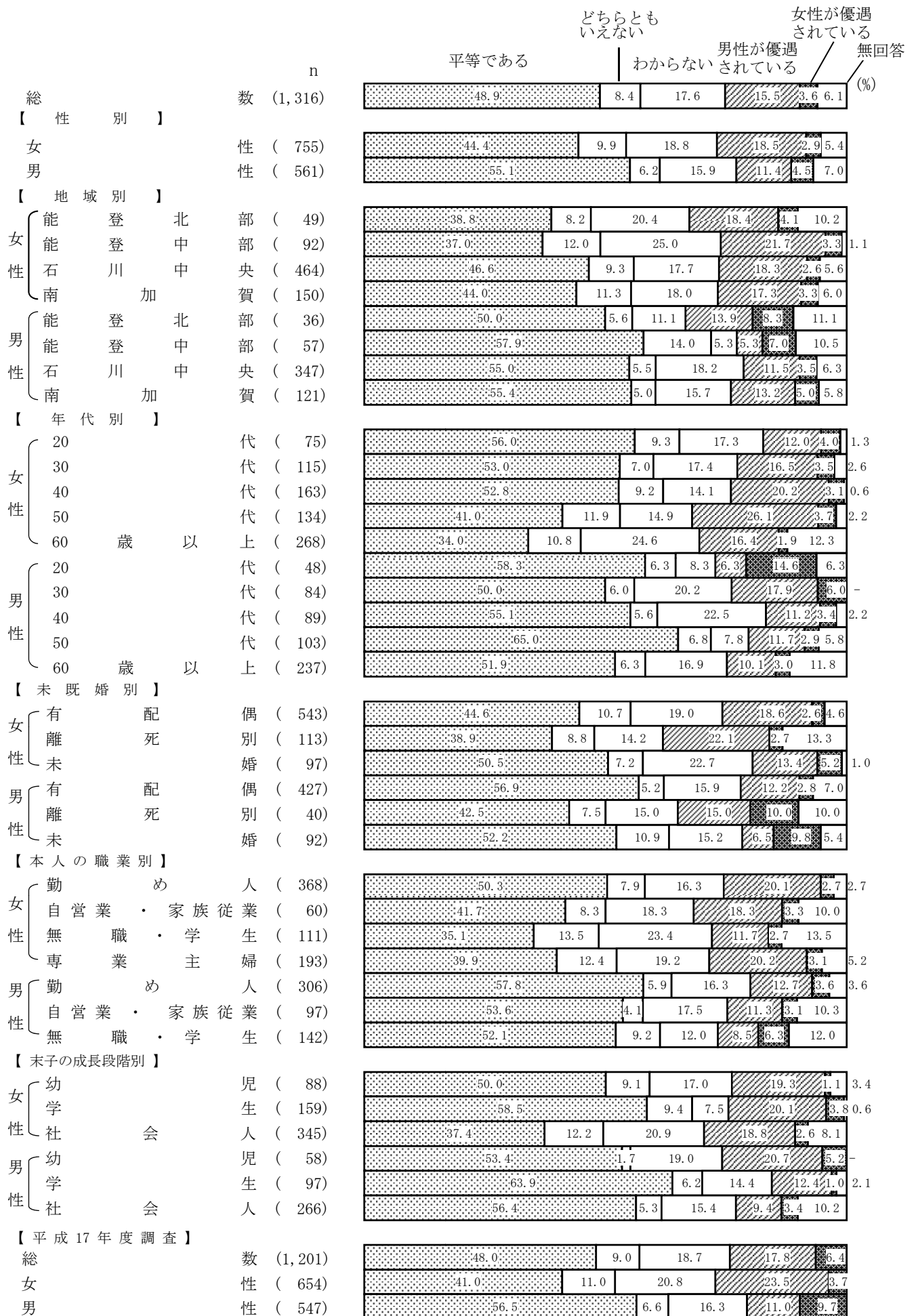
【平成17年度調査との比較】

女性では、「平等である」は大きな変化はないが、『男性が優遇されている』は5ポイント減少している。

男性では大きな変化は見られない。

図1-5 男女平等について現在の状況 (d) 学校教育の場では

(性別、地域別、年代別、未既婚別、本人の職業別、末子の成長段階別、平成17年度調査結果)



男女平等について現在の状況

(e) 政治の場では

【性別】

「平等である」は男性の方が14ポイント多く、「男性が優遇されている」は女性の方が13ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『男性が優遇されている』は南加賀（72.7%）、石川中央（72.4%）で多く、能登北部（65.3%）で少ない。

男性では、『男性が優遇されている』が、能登北部（36.1%）で少なく、その他の地域では6割前後となっている。

【年代別】

女性では、「平等である」が30代（3.5%）で最も少なく、60歳以上（11.9%）で最も多い。『男性が優遇されている』は60歳以上を除く各年代で8割前後となっている。

男性の場合も、「平等である」が30代（16.7%）で最も少なく、『男性が優遇されている』が30代（67.9%）で最も多い。

【未既婚別】

女性では、「平等である」がどの層でも8%前後となっている。

男性では、『男性が優遇されている』が未婚者（51.1%）で最も少なくなっている。

【本人の職業別】

女性では、『男性が優遇されている』は無職・学生（50.5%）で特に少なく、その他の職業では7割を超えている。

男性では、『男性が優遇されている』は勤め人（62.4%）が多い。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」が幼児の子がいる人（3.4%）で少なく、『男性が優遇されている』は幼児の子がいる人（85.2%）が多い。

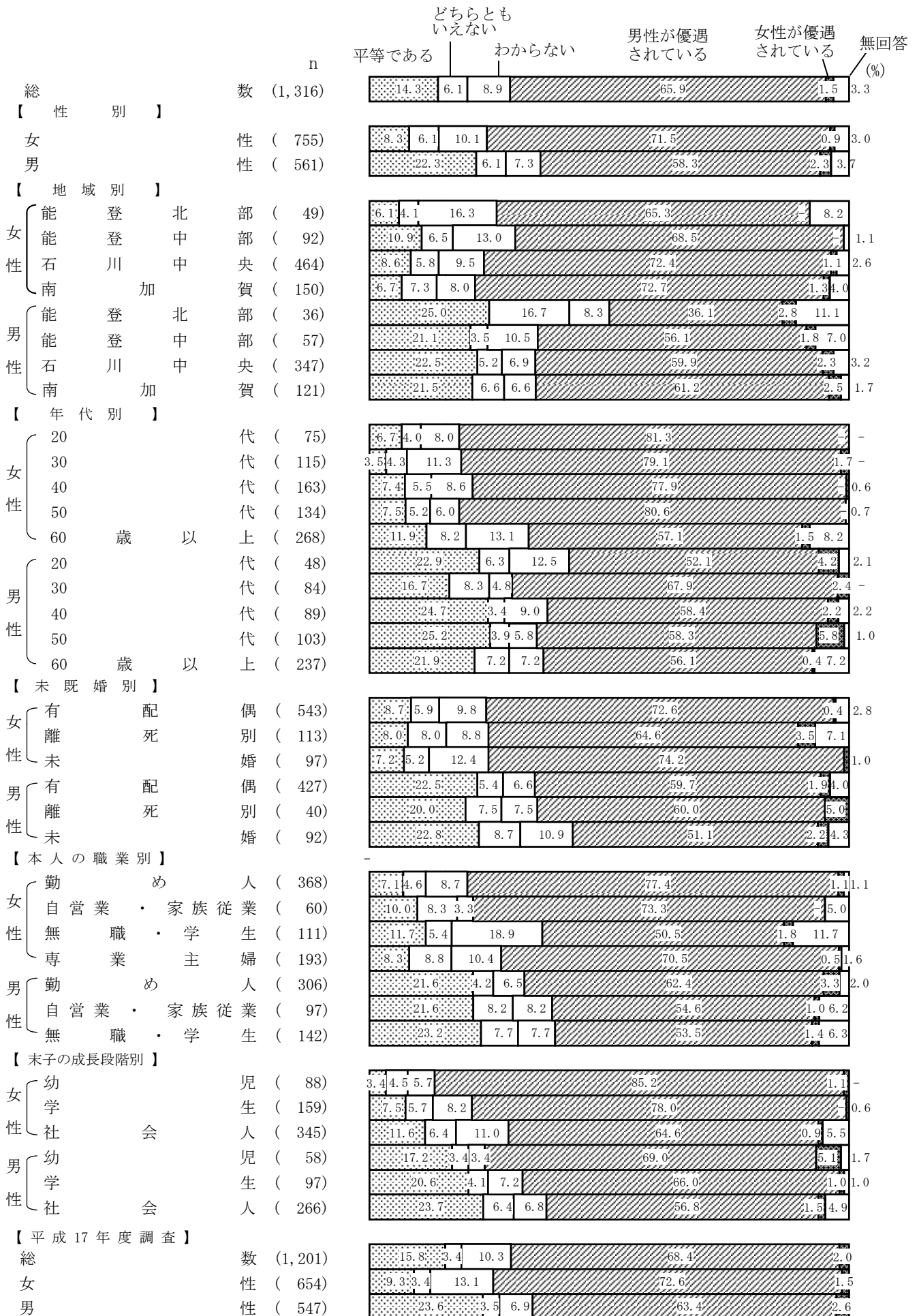
男性の場合も、「平等である」が幼児の子がいる人（17.2%）で少なく、『男性が優遇されている』は幼児の子がいる人（69.0%）が多い。

【平成17年度調査との比較】

女性には大きな変化は見られないが、男性では『男性が優遇されている』が5ポイント減少している。

図1-6 男女平等について現在の状況 (e) 政治の場では

(性別、地域別、年代別、未婚婚別、本人の職業別、末子の成長段階別、平成17年度調査結果)



男女平等について現在の状況

(f) 法律や制度の上では

【性別】

「平等である」は男性の方が21ポイント多く、「男性が優遇されている」は女性の方が18ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、『男性が優遇されている』は能登北部（34.7%）で少ない。

男性では、「平等である」が南加賀（49.6%）で最も多く、能登北部（33.3%）で最も少ない。

【年代別】

女性では、『男性が優遇されている』は20代（37.3%）と60歳以上（34.3%）で少ない。

男性では、20代のみで『女性が優遇されている』（22.9%）が、『男性が優遇されている』（18.8%）を上回っている。

【未既婚別】

女性では、『男性が優遇されている』が未婚者（36.1%）で少ない。

男性では、未婚者で「平等である」（38.0%）が最も少なく、『女性が優遇されている』（18.5%）が最も多くなっている。

【本人の職業別】

女性では、『男性が優遇されている』は無職・学生（25.2%）で少なく、その他の職業では総じて4割を超えている。

男性では、『男性が優遇されている』は勤め人（28.4%）が多くなっている。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」が幼児がいる人（13.6%）で少ない。

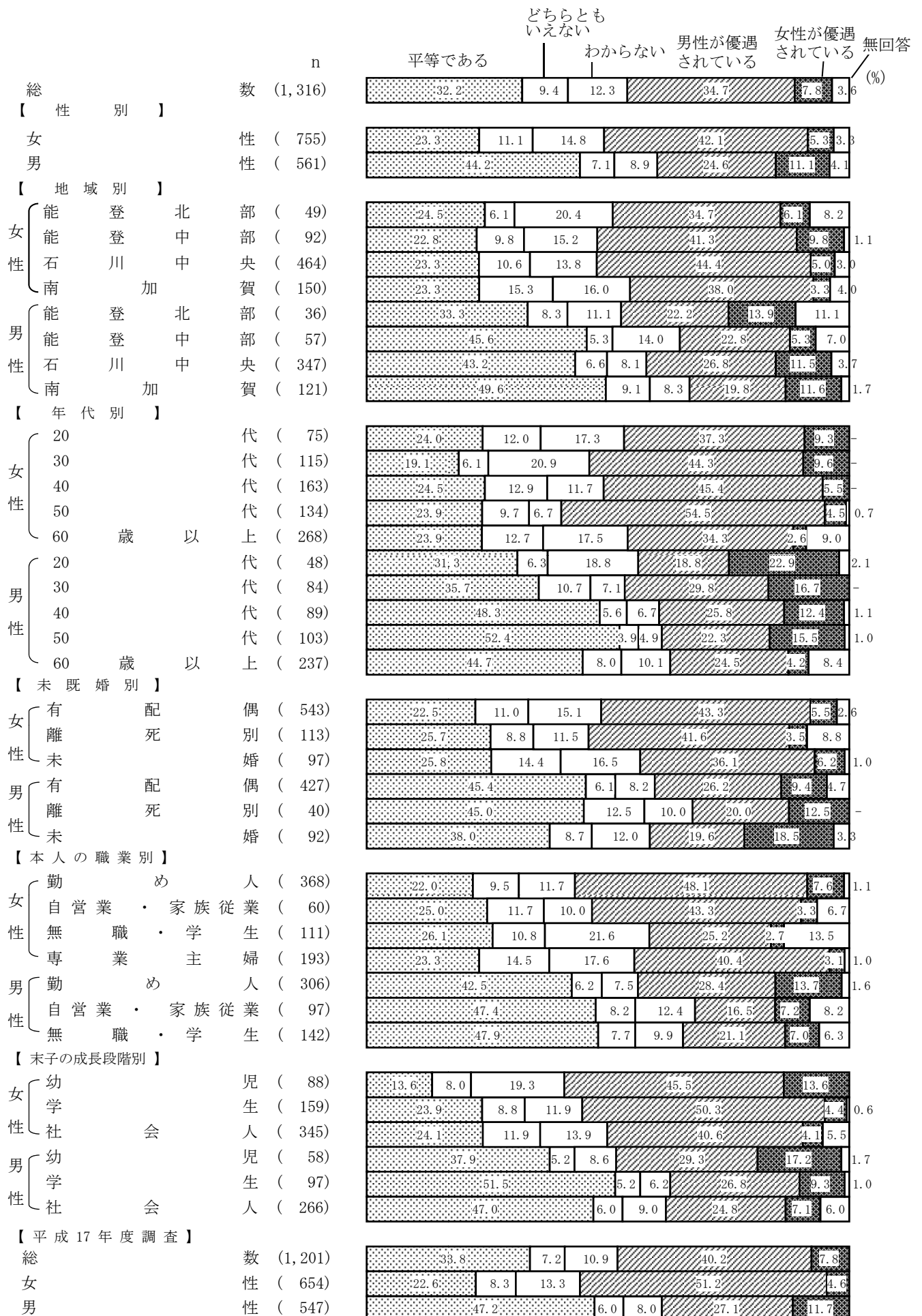
男性の場合も、「平等である」が幼児がいる人（37.9%）で少なくなっている。

【平成17年度調査との比較】

女性では、『男性が優遇されている』は9ポイント減少しているが、男性では大きな変化はみられない。

図1-7 男女平等について現在の状況 (f) 法律や制度の上では

(性別、地域別、年代別、未既婚別、本人の職業別、末子の成長段階別、平成17年度調査結果)



男女平等について現在の状況

(g) 社会全体では

【性別】

「平等である」は男性の方が13ポイント多く、「男性が優遇されている」は女性の方が17ポイント多くなっている。

【地域別】

女性では、いずれの地域でも「平等である」は1割未満、『男性が優遇されている』は6割台となっている。

男性では、いずれの地域も「平等である」は2割前後だが、『男性が優遇されている』は能登北部(41.7%)で最も少なく、他の地域では5割を超えている。

【年代別】

女性では『男性が優遇されている』は60歳以上(59.7%)で最も少なく、その他の年代では総じて7割前後となっている。

男性では、『男性が優遇されている』は20代(41.7%)が最も少なく、50代(59.2%)で最も多い。

【未婚婚別】

女性では、「平等である」はいずれの層も1割前後となっているが、『男性が優遇されている』は有配偶者(70.2%)でやや多い。

男性では、『男性が優遇されている』が未婚者(41.3%)で少ない。

【本人の職業別】

女性では、いずれの層も「平等である」は1割前後だが、『男性が優遇されている』は無職・学生(53.2%)で少ない。

男性では、『男性が優遇されている』は勤め人(57.8%)で特に多くなっている。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」が幼児がいる人(3.4%)で少なく、『男性が優遇されている』は社会人の子がいる人(64.6%)で少ない。

男性の場合は、学生の子がいる人で「平等である」(18.6%)が少なく、『男性が優遇されている』(61.9%)が多い。

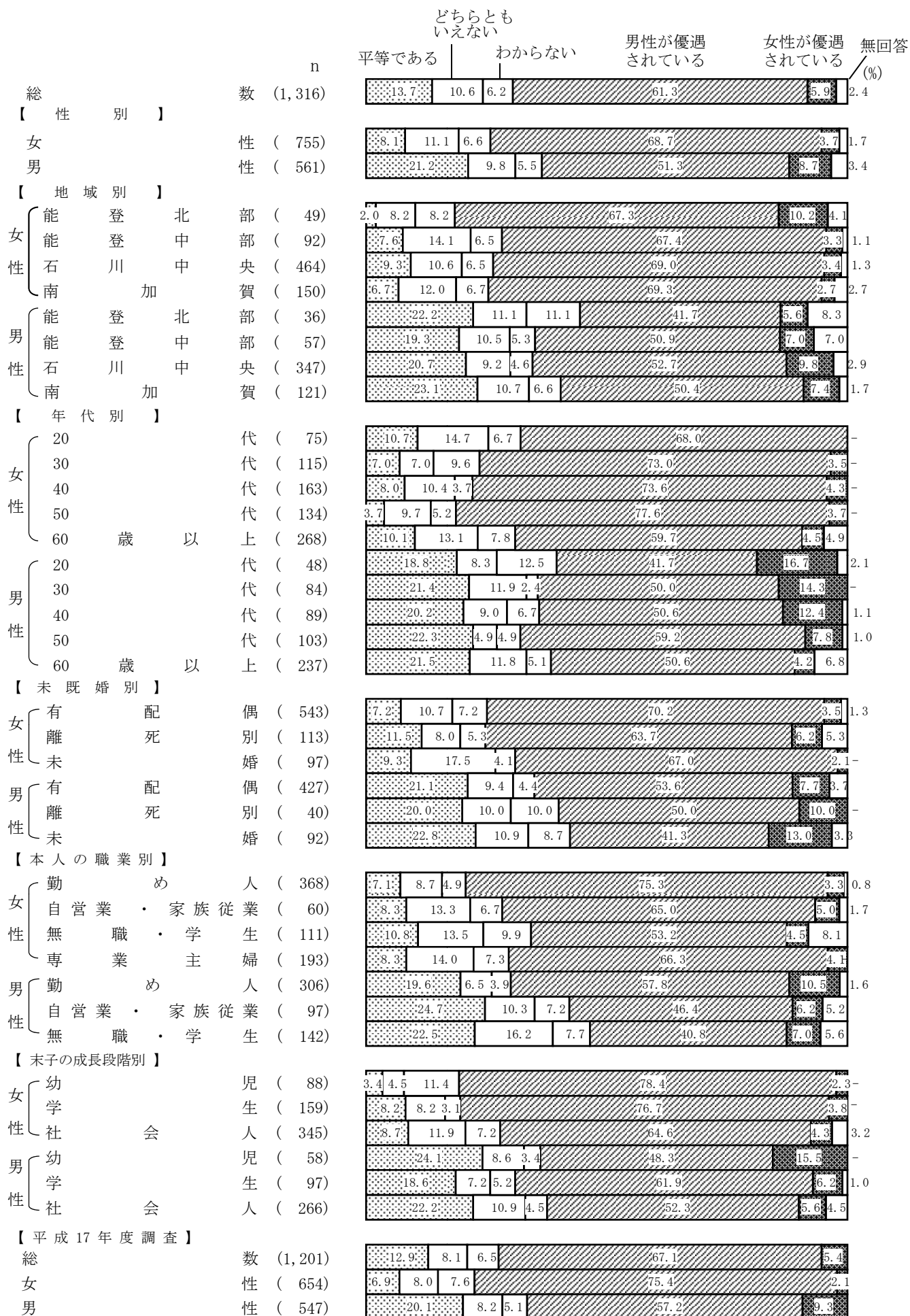
【平成17年度調査との比較】

女性では、「平等である」は大きな変化はないが、『男性が優遇されている』は7ポイント減少している。

男性の場合も、「平等である」に大きな変化はなく、『男性が優遇されている』は6ポイント減少している。

図1-8 男女平等について現在の状況 (g) 社会全体では

(性別、地域別、年代別、未既婚別、本人の職業別、末子の成長段階別、平成17年度調査結果)



【内閣府調査との比較】

内閣府が平成21年10月に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」の結果と傾向を比較する。
(但し、内閣府調査は面接調査であること、質問文が多少異なること、回答選択肢が「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「わからない」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」の6つであること、等から厳密な比較はできない。)

全ての項目で「平等である」が総数、女性、男性ともに全国の方が比率が高い傾向にある。

図1-9 男女の地位の平等（内閣府調査との比較）

